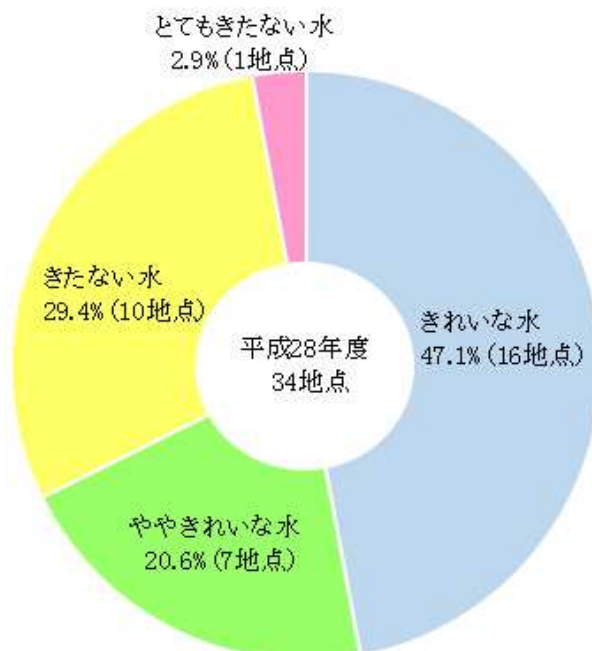


## 2. 調査結果

### (1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 16 地点(47.1%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 7 地点(20.6%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 10 地点(29.4%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 1 地点(2.9%)であった。



＜図 1＞水質階級別調査地点数の割合

### (2) 前年度に対する水質階級の比較

平成 28 年度の調査地点 34 地点のうち 26 地点が平成 27 年度と同じ地点での調査であった。これらの 26 地点の水質階級を比較すると、同じであったところが 19 地点、良くなったところが 3 地点、悪くなったところが 4 地点であった。(表 2)

＜表 2＞ 前年度に対する水質階級の比較（前年度と同一地点で実施された地点の比較）

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	3	19	4	26
割合 (%)	11.5	73.1	15.4	100

### (3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

#### (4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	0	0.0	32.3	0	0.0
	2 ナミウズムシ	12	5.2		4	5.9
	3 カワゲラ類	9	3.9		2	2.9
	4 サワガニ	8	3.4		5	7.4
	5 ナガレトビケラ類	10	4.3		1	1.5
	6 ヒラタカゲロウ類	15	6.5		8	11.8
	7 ブユ類	4	1.7		0	0.0
	8 ヘビトンボ	1	0.4		1	1.5
	9 ヤマトビケラ類	8	3.4		2	2.9
	10 ヨコエビ類	8	3.4		2	2.9
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	4	1.7	32.3	1	1.5
	12 オオシマトビケラ	11	4.7		2	2.9
	13 カワニナ類	11	4.7		4	5.9
	14 ゲンジボタル	1	0.4		0	0.0
	15 コオニヤンマ	7	3.0		0	0.0
	16 コガタシマトビケラ類	11	4.7		2	2.9
	17 ヒラタドロムシ類	20	8.6		9	13.2
	18 ヤマトシジミ ※	10	4.3		0	0.0
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	1	0.4	22.8	0	0.0
	20 タニシ類	12	5.2		4	5.9
	21 ニホンドロソコエビ ※	4	1.7		2	2.9
	22 シマイシビル	15	6.5		5	7.4
	23 ミズカマキリ	10	4.3		4	5.9
	24 ミズムシ	11	4.7		4	5.9
IV とてもきたない水	25 アメリカザリガニ	2	0.9	12.5	0	0.0
	26 エラミズ	10	4.3		2	2.9
	27 サカマキガイ	6	2.6		1	1.5
	28 ユスリカ類	8	3.4		3	4.4
	29 チョウバエ類	3	1.3		0	0.0
合 計		232	100	100	68	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。